

緑の郷土

創刊號



緑の郷土社

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

内村鑑三

聖書之研究(明治四十四年十二月)より

表紙	廣澤榮太郎	3
説書	鈴木辰三郎	4
發育の言葉	前使河原美則	5
石森山ハイキングの概観	國田和	6
緑化運動と青年運動	大河内一郎	7
日本再建は國土の緑化から	荒井敬助	8
緑化運動	大垣喜六	9
赤井村探訪記	松崎愛子	10
入社の手挨拶	吉田昭彦	11
小原先生と私	廣澤榮太郎	12
生活と文化	吉屋信一	13
文化と讀書	諸福元三郎	14
水石の語	大森勇	15
理想の國は遠いか	本木記者	16
函谷關尸解	本門記者	17
婦人	菅間貞子	18
人	不美容組合	19
探	白木章尾	20
文	山名實村	21
藝	佐藤道真	22
英	松崎道真	23
語	佐藤孝哉	24
話	岡野和夫	25
街	甘南雄三	26
道	田	27
【創作】	田	28
【詩】	田	29
俳句の讀本	田	30
友人の告白	田	31
日記から	田	32
人生	田	33
求めるもの	田	34

平市長 鈴木辰三郎

べく機關紙縁の郷土を發刊する 玆に所懐の一端を申述べて發
に至つた事は誠に慶賀に堪えな 刊の祝辭とする。

平營林署長 勅使河原 美 則

この奥田藩藩氏が國土郷土運動の機關となして、緑の郷土を發刊せられたしまして、眞に慶賀に堪えない所であります。御承知の様にかつて吾々は南洋の熱帯帶樹林から、北は神太郎島の亞寒帶針葉樹林に於ける迄約四五百メートルの森林をもつて居たのでありますが、敗戦の今日は狭い四つの島のの上に二五〇メートルの森林が殘されて居るのに過ぎないのであります。然る其の内高山地帯や險地などの不生産地一割を差し引けば、實際の生産林地は二千三百萬ヘクタールと見えて、これを今日の人口と合せますと、一人當りの森林面積は僅かに〇、三ヘクタールにも足りないが算であります。一方が國の木材の消費量は、戰前に於ても自給する事が出来ず、多量の輸入に依つて居たのであります。戰時中過年

獨伐戰役を余儀なくせられた後、更に亦、戦役に於ては戦果次第の復興と、産業の振興のために大量の金に對して應じなければならぬ量に對しては、此れを前述の様なに残された木柄なる資源を以つて之に於て採ればならぬといふ實際に於て採るのであります。

其の結果、終戦後の今日も年々生長を速めた伐採を以て採り出して居るのであります。申す迄もなく森の經營は、保護施業と根本生長を以て採採する、年々生長を速めて伐採する事は許されないので當然であるが、基本生長を生ずる伐採即ち年々の生長の範圍で消費をきかなくといふが爲に森林經營の機關であります。万一、この利の上に即ち生長を速めて伐採し、資本に喰ひつゝ資本の侵蝕となり、遅く早しかつ資本累積の枯涸を見るは必至である。然るに、今日我が國の林業の階級は、生長を爲るの林に上廻つた伐採が持續されて居るであらう。此の儘の情勢で推移せぬか、我國の森林は今後三十年を出てしまつて全く枯涸すると言ふ前途に憂ふべき影を宿して居るのであります。

年々減少に及ぶする我國の森林面積の防止するに、今後果して如何なる對策を以つて之を救ふか、或る人は、今後平和條約が結ばれたら、自由貿易が出来るになればこの國の森木も亦價値と言ふ希望を以つて居るのであります。

それをも決して容易な事とはならぬのであります。なるほど、二十五年前には太平洋をわたるに土產のアメリカ材の洪水のために、國內の森林所有者はひどくおぼやかされたものでありますが、其のアメリカ材を持つて居るといふ、今般に密着したつて居るとは、又、今般では伐採量が生長量を超過して居り、其の木材パルプ工業がオダ、スウェーデンからの輸入と競争するに至つて居る現状であつて見れば、到底往年の夢を追ひつかへば行かないのである。このよくな木材の不足、森林の消耗、日本やアメリカでなく、歐米戰爭中イギリスでは材木の三分二が伐採され、ギリシヤでも土地の四分の一が破壊され、亦是地（ランド）からは億四千方立方尺の木材がうばいきれたといれて居るのうばいきれたといふのは一時の不均衡ばかりでなく、中華民國や國々ではすでに古から木材の不足になつてゐたものである。おなじく世界の人は今は牛乳産物の欠乏に苦しんでゐるといふのであるであります。従つて平和條約締結後、於て決して我國の補給手段に於て望む事は容易に考へられぬ。明瞭であると思ふのであります。一希望通り外國材に依存する事が出来たとしても、今日如何に賃伐均衡の大失策は、怒るべき國王の荒廢の危機を召来したのであるかと云ふ。我戰後、次と起つた大水害は、終戦後、荒廢が其の重大なる因子をな

啓の上に重大なる問題を投げかけて居ると思ふのであります。此處に確かなる林業政策の必要が生じて来るのであります、此の點吾々國民は良く我國の森林の情勢を熟知し、その重大なる使命と重負を擔負し、十分に理解し之れが蓄積の増加と保全に對し、國民的協力を集中して造林に、國民の統化に、邁進しなければならぬと存する次第であります。此の意味に於て、今回吉田滿氏が緑の郷土を發見せられ、國土の統化運動に挺身せられ、と言ふ事は當地に於て、亦邦家のため、眞に慶賀に堪へない所であると存するものであります。殊に吉田氏は理論よりも實踐の士であるとして居りますもので、其の成果は明けて待つべきものがあると思つて居る次第で御座います。其の御努力に對しては衷心より敬意を表するものであります。此處に緑の郷土の發見を祝し、今後益々その御發展を祈念して止まない次第で有ます。

發刊の言葉
 吉田 滿

國越れて山河ありと言はれて居りますが祖國は其山河といふに、流れて、山、雲水、明の國と詩に、はれた往時の姿が何處にありませう。

十年に近い歲月に亘り、植樹と伐採とのバランスを失つた所謂森林の亂伐や治山治水を無視した山間の開發、第三次農地改

發刊の言葉

吉田滿

A black and white illustration of a landscape. In the foreground, there are stylized, dark, brush-like strokes representing grass or reeds. In the middle ground, a body of water reflects the sky. A small windmill or tower stands on a small island or peninsula in the water. In the background, there are rolling hills or mountains under a sky with stylized, horizontal cloud bands. The entire illustration is enclosed in a simple rectangular border.

平YMCA會長

大河内 一郎

年毎に盛んになつて行く緑の週間である。其の現は、この行事ととちへて、その行事によつて何れ株の面積に植樹植林されたものは重宝ではなく、緑に親しむ心、の平和感と愛樹の緑の思想を喚起普及するのと解して觀たのであると思はれます。私の緑の郷土社は數年來手身近な地を美化し緑化する運動が、今同進会が緑の國土再現を期した金、金剛と、先輩舊友の御すめに従ひ機關社「緑の郷土」を發刊することになりました。

私共は猶ほ勝たぬとのぞし、衣食住道は勝たぬのにどうして明に希望を持てませう、況や三年五五年後の將來をどうして氣長に考へられませう、然して氣長に考へれば郷愛感を互方互に勵まし合ふ勇は自然と、實にも出る手近な緑化運動を、實踐する道程となつて世に呼び掛けたものが「緑の郷土」の目的であります。

何方か、本當緑樹を驕頭に

植えて慰め、美化し、學校の卒業生は校庭に記念樹を植ゑて母校の縁故を繋ぎ、併せて在校生の爲に緑蔭を作つてやつて下さい。

生駒市出産には二本の記念樹を蒔き木と稱して空地に植ゑて下さい。結婚式には大楠木と呼んで二本の植樹を下さい。

おふちになりませうか、それが柿の木であつた場合八年目にには實になります、十年經過すれば子供達がお父さん柿お母さん柿を愛稱して喜ぶでせう。三十年経てばお父さん柿お母さん柿お祖母さん柿と呼んで懐かしむでせう。五十年後には御先祖柿とてその家の一財神になります。赤やんが一生の財派出たお七夜を説ふ事親でせう。愛嬌の姫嬢に出来得る限りの仕度をしてやつて度いもの親の情ですがその中から僅かな節約をして次代を繼ぐ門出を祝ふし、新郎新婦の鳴れる愛を祝ふし、しるし一本の植樹二本の植木を實行して下さい。

七五三の御祝に、或は成人の日の思ひ出して、鳴れ着る費用に或はから節約して或は公園に、或は産土の境内に、記念木一本を植ゑ下さい。二十年三十年の後は御一家の懐ひ出になるばかりです。文化國家建設の一つの役割を果たした事に似たり。農家の邸は木々に囲まれ居ます。榮える町村は必ず樹が茂て居ます。春澤とした富士國土文化國家建設は出来ません。人力を合せて祖國を美化し緑化

吾郷同入は、市庁の緑化運動者の集ひにすぎませんが、『緑の郷土』誌上には、植樹造林に關しては營林會當局の專断で、地方々、造園や農業に就ては石城農事試験場の技術の方々が、郷土に關した研究を發表して頂く事に致しました。其紙上に於ては名物の土の執筆に掛る記事或は有名な案内に、村の紹介に、或は人物及び月に參考になる記事を掲載し又月旦各町村の村勢調査協組組合や消防團便り、青年會の活動作品或は爲業の投稿、農方面々祭の開催と藝文方面では茶の城高校の山名宮村先生に俳句の手ほどきと又郷賢は郷土の生

石森山ハイキング
コース開設について

發引當友古田藩氏が縁の郷土に歸つて石森山についで知れることに書けるこの御伽草子といふ林道を開成中であり手と掛けて居り今後の構想についてと期すること。此の山についで見ること。この山についで見るとして民屋にとつた此の位現はるは居る山も少しと思ふ。

殊佳往來より斯く迄も深い後があるたと思得る。

西行法師の思得る折一岩城山の雪のあけば」と稱するれたものゝ山の様である。

寶曆十一年安藤氏家

んだ新雑誌が、白く英尾星に似せた紙の表紙で、題して毎月掲載して頂くものと致しました、又雑誌の内容物として弊女高大門先生生誕の物語、記事など人の會や婦人の身だてなどの參考として平筆の書法を原稿を頂きました。誠に失禮ながら親しく筆をとられました旨様へ差配を賜けた「縁の郷土」を代表し心からなる御挨拶の一言として深甚る御礼を表するものであります。

本誌は來少より五十頁の月刊誌をさし市庁の一課から郷土統條の部を併せて町文化室管理の助に發立したいと考へて居ます。和語を以つて發刊の御挨拶を申し上げます。

臣吉田田子綱重、今より百八十八年前、石巻の事がある。石巻山は山城、里北にあり、昨大坂を定て山南に觀望、立かへたる石巻山、忠孝寺家坂の間、人家所々あり、其のあり、多ししかの時、美奈なる石三十二重の札所にて、石經、佛の塑像、重くしてたむに、石經と云ふとかと、一と稱す、いふたと云ふ山なり。參詣群衆、鎮主、警衛に出る、堂前より東海を見、望し、波た入りし、く風浪、より出、雲に入り、佛堂、風浪、限りなく、島岳候が、平城を築、にあたり、

丁度、親門の爲め、戰場として殊の外に苦闘を要した。かく様であり代々の諸侯も、寧ろ宗廟神祇を祀りて、神の修養に於いて、教者の習見によつて心磨を練るのに専らなかつた様で、老松古杉彫琢者として居つた往時を廻想して、思ふべき若者が一面象牙を並び、修しにせよと云ふ事が必要に得られぬものである。時代は急遽となつた。現代都市の散策の趣向地とも化つたであつた。戦國都市不復の爲に相當の木材を所要とするハインケッドコースとしての二要件を具備することゝ豊林省より認められ昭和二十三年起工溝町に於て延長三萬三百四十九坪に達す。

と云ふがある。私はこの歌を
よく愛する。昔、詩人たる松
林氏が現在の石巻を歩きと云
つても過言でない。

本春櫻を干手は正に松林の
中に植ゐて見たので、二十
三年十年後を想像して必し麗
い景が出来るかと確信して居る。
山頂二百五十歩の石巻に
石匠する人のぞくぞく出て
来ることを信じて疑はない。

あの大陸に咲く白桜の、新
子を一大群に降す儼かな春
地になどは決して他の名ある景より
地に優るともおとる所はない
信ずる。

がない。資金がなければ、資材に今すぐでも出来る治水工事は植林であらう。

共同植金の金すら出し惜しむ人も、自分の家の周りに一本の木を植えるといふは出来る筈だ。地所がないといふふうだが、私は散歩の道すがら、コンクリート道路に面したある家の軒下に、二本の樹木が植えてあるのを見た。それは全く軒下であつて道をたゞは文字通り接してゐるのに、その寸尺の間から青々とした葉を上げしげらした木が伸びてゐるのだ。この寸尺の地にさへ樹木を愛する人には植樹が可能なのだ樹木を愛する心根は、たとひに國土を愛する心に通ずると思ふ。

植物は更に密接に人生と連なつてゐる。空気の浄化であり、酸素の供給源である。ゴミといった害心から一步森林の中にはいれば、清新な爽快感はこの理由である。實に緑の森は自然の療養所である。又氣候を緩和する偉大なる自然の鎮静藥となつてゐる。天然の養老者、森の小鳥を棲まはせ害虫を駆除、種子の播布をせしめ、地下水の泉源として電力、電化の供給源として我々の文化生活を支へてゐる。若しこの緑の自然との關聯が破れるれば、如何なる害害が現はれるかは戦時中の濫伐によつて觸れられてゐる。山岳を荒廢させれば、單に洪水を招き、水力發電の源を滿すに止まらぬのである。類の性格すら變化するのだ。詩人、音樂家、畫家の視野から

縁を憑きつてみ給へ、細細な彼等は悉く精神病者となるであらう。故に、世界は思想家（その謂は約するものである。冷酷を善愛に繋るものは統致である）の三ヶ所である。去る七月十七日から八月七日までの間は、世界教育會議の主催の下に、名、日、米、中、韓、各國の百金女學生が参加した。これは全世界五十八ヶ所で開催された。これは全世帯が参加したワークキャンプの第一の計画であつた。彼等は道路建設、排水溝建設、地ならし、植林等に従事し、労働を通して、社會の中で協力を要求する社會に積極的に行つて奉仕をしたのである。

彼等は時間、労働、財、精神、全てを共同社會に捧げて奉仕するつもりで始めて來た。奉仕することから來るといふ信念を持つてゐる。労働と共にその生活をおして結ばれた友情と協力を享受して高い國際精神を語る機会を得た。彼等の語る体験を聞くに、米國青年はこの作業によつて日本人を再認識した。日本人も亦高い世界のあるを知ることも出来たと告

國境、國籍を越えた青年男女が一緒にシャベルを握つて、一日七時間の労働に照し、体を存むにや交代してとり、休養するとなつたといふ作業振

で、日葡人の三俵の能事を
け、二週間を隔ち九米。全長
二五〇米道程完成し、水に
渡り乍ら川底が砂利の中で
激しく折かたの險峻の中へ、
員雨にも多難になり乍ら、深
さ二・三長さ一〇〇米の排水機
を作るなど文字通りの重労働
感刷しいやうな扱いである。
も日夜、夜間には供役者、市
民青年團等に依して奉仕をし
てゐた。

戦後日本と青年の文化運動は實に反愛と協同以上にはないと思ひ
てゐる。而もクリスチヤン青
年のとりあつた仕事は地ならし
と植樹のみならず

戰後日本と青年の文化運動がきだげられたいといふことは、我々自身もよく自覚するところであらうが、今般に反対する者があらうが、私は自由な、そして高められた精神を以て共同社會のため捧げたことをこの奉仕は眞の祖國愛となし人間らしく振舞つてゐる、再建に速なりゆくこと信じてゐる。

植樹活動が我等青年の手によつて探り上げられて、その目ざめた奉仕的作品によつて日本の緑化されたと、爽やかな清新の氣にあふれた自然の立置は確保され、健全な思想の立ち直りは始めて平和日本、文化日本の名譽を得るのである。

筆者は露大河内整形外科部長長

荒井敬助

生活にも亦大きな影響を及ぼす。この神經作用が直接精神に日常の生活に於て神靈がいら／＼して突如化して大變起はとなく平和をのみだしし事、受傷、殺人等の他、いまだしし事件の數々を起し易し、落付いた軟い神經は溫和而て慈愛に富み、人情の極めて平和である。かく收斂後の國民風情は倣に粗癩し、人情は影をひきめて日に切實、強盛、殺人等のいまだしし事件が累加して海に暗く沈んで利害の多い世相となつて居ることは嘆かばしし事である。東京を始り大々市は勿論、地方小都市を歩いて見ても、戰前當時のあの破壊と惨忍の跡が未だに卓然とあつて、廣畑同然の姿のまゝものが残つて居ると海に還像である。こんな姿を日々にながめて居ると自然然る大風情になることが是れである。一日の激務を了して夕刻す／＼／＼しい公園にで

も行つて美しい緑の自然の恵に接すれば自から練れた心身を養ふことが出来、明日への活動力を養ふことも出来るのである。緑の街路樹は美しいオアシスであり、荒み勝たぬ人心を軟け真の人間性にたらし返させる清涼劑ともなる。病院、療養所、感化院の庭園、花井、園藝作業は如何に人心を爽快にし療養感化に多大の効果をたらすことは申すまでもない、更に植物を育てる心、これ程なれどして慈愛にみちた神の様な清らかな心はないと思ふ。この様に人間の感情と緑化とは密接不離な關係にあることを思ふと、今日の如き敗戦による荒み切つた人心を潤ひ人間味のある徳徳の高い國民に引きもよす爲にも、緑化運動の重要さを痛感する。次に我が國の食糧問題、これ程現在切實なそして大きな問題はない。日本再建の根本は食糧の解決でありと言つても過言ではないと思ふ。經濟の再建も民心の安定も一切が此の問題が根本であることを考へる時、一日も早く食糧問題の解決に邁進せねばならぬ。此の爲には農業技術の改善によ

二毛作として、麥類、蕎麥類の主食から國民保健上から蔬菜類、或は油脂資源の米糠の栽培等蓋し國愛として努力すべきであらうと思ふ。假に本縣の實情から見ても水田而積九万六千六百四十六町歩の中現在利用六百九十九町歩に六、六六の六千二百九十町歩位に過ぎないが、二万九千七百歩位利用作することが、これは決して困難ではないと思ふ。

現在未開闢地買収等で種々各所に問題を起して居ることは傾斜が余りに急であつたり、不良土壤であつたり、或は現在立派な森林であつて此れを開墾しても決して農作物の出來ない様な所を買収し様とかいつて問題を起して居るところが相當多様に思ふ。適地適作で地とすれば實に立派な材木又は薪炭が得られんとき無理に農作物を作付し給へんと言無然なる有様では國家經濟上こんな馬鹿な話はない。寧ろ水年作付した水田の肥いた土地を利用し、粟作による増收を計ることが最も大切だと思ふ。どうも從來が無理した開拓地で殆んど收穫が舉らず放棄して居る土地を時々見かけるのである。或は技術改善による

し、又輸入農産物を増産し不足食糧の輸入も亦大切であらうと思ふ。次に食糧に次ぐものは住宅の問題で食糧も亦現在の日本では最も切實の要がある。――山高きが故に貴に貴ならず、木あるを以て貴しとす」一國豊なれば山榮ゆ、如何なる山と雖も荒山であつてはならない。緑の密林になつてその住宅問題も清水の問題も解決することを考へるべき、山の緑化程大切なものはない。

道傍の緑化殊に牧草混播による緑化は畜産の振興となり、畜産の振興は健康な國民の素地をつくるとともに國民の緑化は高尚な趣味と家庭經濟の一助ともなつて明いなる健全な家庭をつくる基となる。かく考へて來ると耕地の緑化は勿論山への緑化、街路の緑化、庭先から堤防の緑化、既に全國の緑化こそ物心兩面から見て日本再建の基盤をなすものであると斷言出來ると思ふ。この秋に當つて、廣く郷土社には新聞を發刊して、廣く國家社會に貢獻せんとする企のあることは海に時宜に即したことで衷心から感謝と敬意を捧ぐると共に今後吾々も農作物の

平 譯 長 大 垣 喜 六

今春も緑の週間が行われた、戦争中の徴役に於て國內の山は皆ハゲ山となり、それに加へて、復興住宅用木材の伐採、荒地開放に伴ひ山林の思ひく切出しなど、山は益々緑を失ひ、これが原因にて公衆の健康、各家庭にまで緑のもはれは殆んど見られなくなつた。戦争中、日本は諸陸の様々美しい國と云つて諸外國から喜んで觀光日本に遊覧客が多かつた然し其の當時も決して只放任して置いて美しい日本が出来るわけではなく、官廳や公共團體の力によつて樹木を愛護せよとか草木を折るべからずとか云ふ立札が各所に立て居た。それによつて大衆が教育された事と思ふ。今はべからず主義はなくなつたとしても、これに代つた協力とか、民主的とか云ふ事によつて緑化運動が強力に叫ばれて居るが、なか／＼實情があらがない。然し誰が見ても緑と云ふものはよいもので、たとへば一輪の草花、一本の松の木でも公衆は必ず立留つて見て氣持をよくし、人の心をやわらぐものである。又日本は特に草花を愛し、緑に親しむ國民である」と云ふ事は、昔國內が亂れて彫

綠化運動

平驛長 大垣喜六

吉田昭彦

此の緑化運動に一段と各位の協力によつて緑の平市の實現を希

望する。

赤井川の續く勢を伺ふべく、小春日村の續く勢を伺ふの某日、警越東縣川堀郷に下車した。行き届くは、一小時内の麓化、待合所の清涼、村の姿は歸ならぬの郷が當つてゐるとは歸ならぬの役場、學校の整備等、一般民家の衛生設備等も異相像へる。驛頭に立てば二箇の靈峰が北に在り、名剎御川岳の連峯は、水石を分水嶺として西永戸村の川を流れてゐる、その山あひの川を、北から南に夏井川の清流は千谷のせせらぎを續けて、上下小川組合村と東の境界をなしてゐる。その夏井川の右岸、北は江田から、南は赤井、愛谷の地に至る南北四里、東西一里半が、その村の全部である。全部長方形の村である。學校も第一、第二の中學校、停車場も赤井川堀郷の二驛、郵便局もその驛道物へはつる様だ。徒歩十五分、役場に至れば、古堀に達して是れ古村長谷、古堀六丁に達して是れ古井者を凌ぐ活動振、吏員生活四十年の



磁器、家具等は其の原料土の産ある爲、特異の産物と見られ、北部の研炭、南部の果實は前者は年産二六六七〇〇圓、後者は八〇〇〇圓を産する」と云ふ。果實中特に梨は本場蜜濁、福島梨等と風味匹敵するもの。米、粟五、六四石、麥一、四六八石の生産基礎の上に農家五五戸よりなる農業組合は且ての賑和なりといへる。一氏は組合長に、事務理事には福英の名用齋たりし鈴木文彦氏、理事に田久彌一郎、松本英男、宮内喜一氏等数十人である。之等並兼せる村政の創立をなす村會議員の諸氏は議長福田五十代の壯と老鑑六十六名の開議期に議員によつて熱烈な奮闘振りと聞く。村の前途洋々たるの感を深くした。

歸途村停車場に村有力者等、其に遇ひ村將來の意見を叩く。下川南木戸石を境に北西部は下川南兩村と合同し、小川町を建設すべく、南部赤井は人情相類似たりと云はれる平澤と笠の平田に併合し、大平村建設に一致しふべきものと思ふ。

終戦の御放逐を、滄沱と流
し、浪の中に漂流してからはや
く祖國日本の變り方は恐ろ
しく世界何れの國に比べても
したる變遷の國があるまいせう
と思はば感無量なものの私一人
はないと存じます。

當時思ふ上や宗教観念は中
途までも自らをさへ顧みず
との出来なかつた自棄に等し
しいとい毎日の生活振舞ひであ
りました。そして國民道徳は地に
着かぬ土私共の生活をにおぼ
かしめたインフレーションの波、働いて
いても収支のバラツキのとら
ない一家の經濟、身近なもの
から買つて先づ食を求めると
の頃にあさましさをも思ふ時

松崎愛子

入社 の挨拶

(註) 筆者は日本経済新聞記者
双高二年生學

如あかれもや望ましてす　でかこら西る

入社の挨拶

松崎愛子

達に、二首三首詠めて、それから「コッパ」を括弧に入れて、つて、あゝ、とは、抵抗自分の仕事をして居られた。當時の私達には、先生の精力的な面まで、觀察する余裕、其知識は、勿論なかつた。この先生は、數年教育を提唱して、敢然と時流に抗してたゞか、理想主義的大教育家になられやうとは想像もなかつた。

私達と一緒に、中條、山内、尚儒など云ふ三四年生先輩が、先生の宅に何つてゐたのだ。これ等の先輩とは、しかし、同席したことは一度もなかつた。彼等は私達とちがつて、受験勉強か何かで、本氣に勉強して居

とになり、備前等の先遣と先を隔んで、例の栗林公直の日記の寫真を、この寫眞館で記した年迄、ちよいと家で見かへるが、四五年前の舊物雜聞以來、方不明である。

その年の秋、大正大學の御典があり、その道物見學を至る處地方に修學旅行があつた。その中學では、修學旅行など云ふのは前代未聞のことであつた。學校は大發奮であつたらしい。私は旅行用に懐中時計が欲しくて、おやちい娘請たがものにならず、結局おや

あの生活の中に草の汁から線
を作り木を炭で木炭を作り、
土に野花を蒔き、或は小さ
き新聞紙の切はしに風景畫を描
く。無から有を作り出しあの無味
臭な抑留生活に大きな慰安と
喜を與へた事は求めない事と
思ふのである。

私は強くわれらの文化を作り
出すことは不可能ではないと斷
言したい。

高層文化住宅の立ち並んだ街
縁の並木によつて初めて美し
く調ひのある街となるのである
ほんとうに生活を我らのもの
として身近に生活を、街を、國
を美化して行つて、文化日本
として誇らない國家となるの
と思ふ。

(註)筆者は本社同人職藝師南家

であるが、一時は義務制の立
てあつたけれども、今制度は
制のものらしく、國庫の補助
財源次第で弾力性のある案で
るから、多分通過することと
ろう。

この際之時代には充分に圖
を買い入れる可能性ある筈は
りあるわけが無いからその土
にあら學校圖書館を公衆の妨
供する便を計つて、新しいとの

ない。しかし私は終戦後あのペリヤの奥地に苦難な留學生を三年の間過したのであるがその生活の中、草の汁から繪を作り木炭を炭、或は小の上に野花を畫き、或は無から有を作り出しあの無味燥な抑留生活に大きな慰安とひとを與へた事は尠ない事なのである。私は強くわれらの文化を作り出すことは不可能ではないと斷言したい。

高級文化住宅の立ち並んだ街路の並木によつて初めて美しく潤ひのある街となるのである。ほんとうに生活を我らものとして身近に生活を、街を、國を美化して行つて、文化日本として思ふに國家となるのである。

(記) 筆者は本社同・職藝藝術家

教會と圖書館であると聞いている。日本でも市町村にそれぞれ公共圖書館を建設する法案があるが、これは、一時は義務制の立であつたけれども、今度はその制のものらしく、國庫の補助財源次第で弾力性のある案であるから、多分通過することであろう。

この新設時代には充分に圖を買ひ入れる可能性のある館ばかりであるけれども、それらに於ける學校圖書館を學習の妨げにならぬ便を計つて給ひたい。

更に注目する。これは従来の圖書室を科學的、技術的に整理するのことに要請して、書の養成機關を設ける必要を加味せしめ、その建設はもて代償が高くなるので、なかなか行つたべからぬので、隣米の文化團體圖書館が完備している中で、學生が殆んど自分の便をわすれ参考書が讀めるものである。圖書は本を讀む時間が無いという者があるけれども、三十分や一時間の讀書が出来ようなら、そのことが、果してどうか。

農村の文化を進め、時代に合致しないものも改換して、封建思想を根絶せよとの生活理想を擁護しようと思へ、その生活理想を實踐に移せば讀書の時間位は得られるものと信ずる。

町でも村で、心算盤、建設してつもらいたい。

エログロの本も良書を読むとの習慣が出来れば福利はたくさんある。全國七十余の公民館の活動も平和日本、文化家の非難をすて付けるに大切な事であるから通常の實を擧げよう。有名家の熱意を頼みたい。動員圖書館、動員公民館、進みゆく新しい日本。

10

大森勇

と思ふ様になつた。吾人は理想郷を遠くに求める必要がなく、グロリアさんの様な吉田さんの様な氣持になつて、努力を竭へば其處は即理想郷になるのだ。吉田さんは自分獨りの欲と願望だけでは何處に働いても仕事は制限されて大に氣がついて、雜誌を發行して事に呼びかける事になつた。吉田さんの欲と願望に導かれて、石城館に理想郷を建設しようでは、先づ山と云ふ山、森と云ふ森、原野と云ふ原野に植林する。赤杉樹も湯の嶺も二つ矢山も卒たする大水でおはれる事になる。すると果願の様なものが隠れた場合に押寄せに困るでないかと心配する向きもあるだが、そんな米糶の心算は四捨五入してよい。

キテイ嵐風の様な暴風雨があとから、やめて来てても洪水は洪水だね。次の時代の小供共は洪水とは何の事だかわからない。その小學校で嵐風を襲つたのは郡内のご小學校では中後や會津地方に洪水見學に出掛ける様になる。

蛋白質の補給にもなつて食糧問題の一端を解決せしめる事になる。また何處の農家でも豚と山羊と細羊を飼ふ事になると、豚肉が百五十回位になると、今日でもコックウケと食卓にきざやかの中コックウケと食卓にきざやかになつて家庭は平和になる。羊毛が多量に生産されると第一に喜ぶのは仕事の材料に苦んでる生産場である。投産場を古川の川涇迄擴張すれば、政府は如何に多量の失業者を生産せしめ、また、心配を省かぬまい。投産場の擴張の序にお隣の隣保館も古川の川涇迄擴張すれば、兒童の健康増進は受合ふ。國民健康保険は社會保障に迄發展する。保險の掛金は保障税として徴收される。掛金に代はるは保險證を出しさへすればたゞで親切に治療して牛を賣る必要がなくなる。福利協會で造つた久原の病院は綜合病院として經營して見たが、結果に於て郡内二百名の開業醫の邪魔をする事以外の何

ちり
料理

こんな事を數ひ立てると限りがないが、之は夢だらうか。人間は自利的のみに動くものだと思へる人に取つては、正しく夢である。然し人類は相愛し助け合つて生きて行かなければならぬと考へる者に取つては、こう云ふ世の中にならないのは、御互が夢を見てゐるからだと思ひ度い

(註)筆者は大森内科醫院長

食道樂
江戸川
電一〇二

私は或日のいなき民報紙上に「ありまゝの姿」と題し、人々についでありまゝであつて欲しい。

× 唐装や、唐色や、巧言彩色は私にとつて、必要のない、飽きた存在だ。× 土云々というような想を載せたことがあつたが、之れは私の偽りの無い眞感である。

× 私が水石の良さを知り、水石に魅力を感じた動機は、そもぐ其處に端があつたのである。私の愛好する水石が、いつの日も私にありまゝの情情な姿を素直に見せてくれるからである。

× 私は水石を趣味の一つとして愛好してゐたからすると、十五年にもなると、今もつて水石に對し、毛ほどの嫌惡を感じたことがない。と云ふのは水石が、私に對し、いつても忠實な愛嬌情な姿、いつたりなき正しき心を見せ、私の眼をよろばせてくれるからであらう。そして偽りの無い姿と同時に、空虛な安易や、安閑な謙歩などども全然なく、あくまでも、然らずとも、彼れの一つのおかしく難い風格を備へてゐる處が、大きな魅力だ。

× 彼れの表現は、バツンの彫彫に觀える無言無慮はない。千変万態の樹の肌、葉の色素には繪の欠けしさと、眞と善の美心を感ずる。だが、私のやうな迫力に欠け、小滅の藝術樹は極めて弱い。

× 實際に於いて、盆栽には盆栽としての個性があり、他の追隨をゆるさぬ獨特の良さと味があり、小閑をぬすむに鑑賞するには誠に絶好のものと趣味として、は極めて上品で、上無にもは説くべからぬ。私として、その何れを選ぶかといへば、何んといつても水石だ。あの強い水石の魅力が、私をグン／＼引つ張り込むからである。

× 十五年間に蒐集した水石の数は、万を數えるかも知れない。しかし、今の中からは、これとは思ふ逸品は、現在のところ、世界で名かし内外である。この分は、この三十個が、自分だけの、庶幾に三石として誇り得る珍品と思つてゐる。だがこれも、今後五年とか十年を経て、墓下へ抛り落されるようになるかも知れない。又何れも年経つては依然として横／＼の地位を守り通すかも知れない。それゆゑ、水石に對する私の鑑賞のレベルが向上する事と、更により良き水石の出現と云ふのが、品位の比較對照となるわけである。これは確かな事である。今後十年、二十年なり経つても、これに倣なる名石が、出なかつたか、或は、私の鑑賞の眼が更に進歩するに據る名石と、現在名石、逸品と思つた水石も、自づと、落第点に歸入され

現在私の所有している水石の大部分もこれである。今まで存在し、認められて来た一躍有名な石を全國に露かに出して來てゐる水石の數は無数で、川に流れてゐる水石の數は無数で、掘え、鑑賞し得るものもは喚石としての眞價の程も、環環として如何に名石でも、環境を無雲とやらで、水雲と水石、形と色と並べ、切角の水石も台なしである。水石の色彩と水石の形態、これが美術とも云ふべきであらう。この構構に名木と雖も、駄鉢では引き立て鉢は盆栽によつて一層生彩を盆栽と云ひ、結論は同じである。

時折、東京に盆栽と水石の屋、殆んど全國の其の道の業者は、に臨むことが、あるが、盆栽者は一口に云へば、巧妙に細工がほとんど、経験のたまひなりは、堂々々々らう。しかし、私達同好の士が、がすぐわから、掛軸でも同様、のほどが、はつきりして來る。あつて、きかぬ。そこで初めて、ありのやに飛びついて行く。この慾求心理、知る清純なる世界でも云ふのみ。

だからこそ、人間は矢張り「エエ私、あの偶なら純情そのものの、あの胸の打たる思ひが、さす心で、嬌、嵩高い心構が、人間交々、一は「偉大な哲人だ」と叫んださうで、佳友として永久に座右に備へる。

部分に、好聞川から採られたが、たゞ新聞も名石の産に至つたが、その長江流域の好聞川の併し、水石として、天星の名の如しである。水石の名で大体想像されるものと思ふ。

視してはいけなない、馬子にも衣調、この表装が一体ならなければ、水石と水磨の選擇と一置き常に面會對して、水石界の二つの技法は、益致しても同様に、如く放つものである。水石と云ひ

×
覽會が開催されるが、「出品席にかありである、私も三、四席に着てみたが、水石は天下の名石をこれら全部は手がいっている」といふのである。水石に余るものと、逸品の如く観えるものと、手はいっていることと眞偽ニテ物によるが、よく觀ていると、驚かすばかりでなく、今や能くまきの姿や技巧のない、ホンモノであらうか。

×
物に成らないことである。水石の姿を凝視して、いつも強いつつ時でも、いつの場合も、勇敏で、美しく云つたフツンは、無心の大切な事であると見てある。無心の水石こそは、私の訪の客への、よき贈り草とした（澄心草）

(註)筆者は大出山釜屋西村嗣子

ちりなべ

御好み

食道樂
江戸川

電 10111

幽谷背戶峨廊

緑の郷土社

南北福壽嶽は東西四百六十六軒、南七百三十一軒に亘り、面積一萬三千七百八十二方軒、地域を占めて居り、岩手縣に次ぐ全國第二位の大縣である。

從つて多數の山々が巍然立つてゐる奥羽山脈と起伏の多い丘陵地との奥羽山脈が平行して東北に從つて居り、その上この兩山脈の支脈が、殆んど全縣に亘つて横つてゐる爲め、幾多の山とつてを隔てて發する無數の溪谷とに處されてゐる。

江田川の溪谷を呼んで、江田川は石城郡前村神樂山の麓にその源を發し、岩清水の細い流を集めて流れ上小川村に入つてやうやう夏井川の支流らしく江田川の形態を整へ、江田部落で夏井川に注ぐ約八軒余りの谷川

最近部落有志や、地元青年團文化部の盡力により山道補修をなされ、難所には鐵網等を設備し、ハイキングコースとして遊し最適である。

故に磐梯、吾妻の如き名山や、又川井、那知川上流の溪谷の様な有名な原野地が多いが中には世に知られない所謂無名である。が幽邃の地が背戸所にある。こゝに紹介する背戸峠の如きもの一つである。

尤もの背戸峯郷については、一昨年夏の頃、郷土の生む大詩人草野心平氏が讀賣新聞紙上に投稿してからやうやく世人に知られた。近頃は市平・川協會理事西村孝藏氏が、世に民報紙上に紹介され一段と世に認められる様に見えるが、尙位置や道順、時間と費用等を考げて指導の役割を果し度い考へである。一休峯郷には表峯郷と背戸峯郷との二つの繁盛地があるが、僅に里人が峯郷の四十八麓と呼んで親しむて居たに過ぎない。表峯郷は上小川村片石の溪谷を呼び、背戸峯郷は岡村江田の

道順は江田停留所より川前に向つて徒歩約五分、村落の端に板敷がかけあつてゐる。それが江田口であり峯郷の入口である。入口から北へ竹叢と櫻林とに挟まれた熊笹の小道を攀ねながら約三十分許りで道はつき江田川に出る。背戸峯郷はここから始まる。四十八麓と呼ばれてゐる様であるが、小無數の滝奔流湖等の連綿にその中名のあるものが、僅に探險の道順に従つて舉げれば、

屏風
の様に巨風の如き絶壁であり、高さ三〇米もあらうか、巖頭に

老樹繁り下には身を切る様な清流が渦巻き流れてゐる。

廻り溜

屏風岩の上流稍々廣い淀みである。往時鮭が遡上して産卵せし處といはれ今尙山女、岩魚の遊ぶするを見られる。

(寫眞は三連洞)

廻り瀧より石から石に飛び或は
岩にすがりながら河原を渡つて
約十分位でこの瀧に至る、高さ
二五・七米の瀧でありトツツキ
とかトツカケは方言で初めの瀧
といふ意味である。

釜ヶ淵 トツカケ淵を登ると鷹の見降しに出る、この絶壁の下には黒く

釜淵より二〇分位で達する。

片鞍瀧 三段スダレより十二、三分でこの瀧に至る高さ一〇米位で四邊薄暗く調査費く兩岸迫つて莊嚴の連なり、これより先 瀧又瀧の連続である。

龍門瀧 花崗岩の間を曲りくねつた早瀬がうねつて、飛沫を上げて、落下してゐる、片夜瀧より約一十分。

黒鍋
勝門淵より黄金とろかしを經て
黒鍋に出る、この淵は惣下一〇
米位の處に黒く淀み、兩岸は垂
直な鵜壁で下る事が出来ない、
崖かに怪にすかつてのぞくに正

に冷汗三斗鬼氣迫る瀾である。
瀾の寝床
龍門瀾より約三十分、五、六米
の處より大きな瀾壺に落下し瀾
となる爲この名がある。
鹿の子瀾

瀧の筋味の瀧壺の終を
苔にすべり乍ら登ること
約一〇分でこの瀧に至る、この瀧壺は、

峨廊一の深さあり水深
六米といはれる。
 三連瀧
 鹿の子瀧より約三分
で峨廊最後の三連瀧に
至る、故に頂上の瀧と
も云ひ、高さ二〇米一
番容の良い瀧である。
 炭焼廊
 三連瀧の上層岸相迫つ
た長い廊下で、巾一米
強の岩の間を六歩りを

背戸峨廊略

背戶峨廊略圖



上げながら凄い勢いで流れて居る、こゝを通過するに猿でさし手をとり合つて通つたといはれ、人は全く背戸無い。

こゝで青井嶺は終るのであるが、入口からこゝ迄三時間半は四時間から六分である、歸途は猿轡間から門部落に出る山道がある、四五十分を下る事が出来る、指導標がどのまゝ路にも立つてゐるのでも迷ふ様にはない、全行程八杆町時間にしては、五時間余りで陸路出来る。

平から赤井小川を經て江田郡まで二〇杆、乗車費復八〇圓、飯食費郡山日八時三〇分探の列車に乗れば一日ゆつと探勝を悉に一日歸りが出来る、時間費用の点又商賈の地と少し遙かに奥日点を凌ぐものも無いに類らない。

婦人の欄

庭球の手ほどき

1 福島縣立磐城女子高校
大門 七

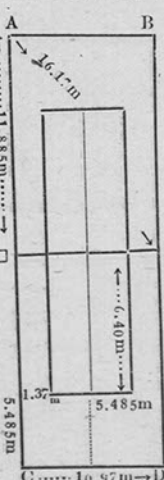
近頃目立つて日本中を風靡したものは何であらうか。收戦の暗い氣分に明るい光を與へて呉れたものは何でせうか。それは日常皆さんが見たり聽いたり又學校でよくやられたスポーツであります。私達が生きてゆく上に運動の條件とする、諸君に必要な條件とまでなりきつてしまひました。健全なる身体

ると共に、機智や判断力に富みいざと云ふ時に自分の進路をあきらめる様子がなくなりました。長くも今上陛下には、御幼少の御よりスポーツをお好みになされ、幾度か各スポーツ競技會場にお成りになられました。今年のお成りになられたのは、兩陛下のお成り同様、ここに全國より選ばれた諸君と相對し

[illegible]

お料理二つ三つ

菅間貞子

[illegible]

甲せ、等又し互まな
 式内目る量に

整形
外科

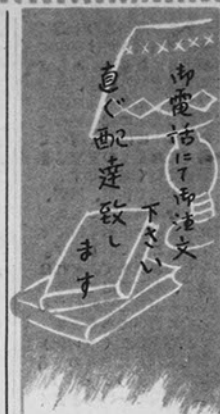
大河内医院

平市才捷小路四
電話 五八八

刊創祝

関内薬局

平市
電話 四四〇番



加納書房
加納活版所
屋西
細電 409

磐城通運株式会社



昭和二十四年十一月二十五日印刷
昭和二十四年十二月一日発行

【定価四十円】

小名浜所
御代亀太直

未井村長
吉田萬吉

パン
洋菓子
ベーカリー
東京堂
平市才捷小路
TEL 1108

洋服
帽子
靴
伊ワキヤ洋品店
平市才捷小路
自動車庫前
緑川橋一

印刷所 加納の活版所 土屋